



# ちおん

## 萬福多幸

神余山 智 恩 寺  
館山市神余2785番地  
Tel.0470(28)2518

平成二十年元旦

### 新しい年を迎えて

筆頭総代 加藤 弘

お檀家の皆様、お健やかに新年をお迎えのこととご推察申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年は庫裡建設に伴う裏山の整備と庫裡敷地の嵩あげ、排水工事につきまして、壇信徒総会でのご審議そして御理解いただきましてありがとうございます。おかげさまで早速工事に着手させていただきました。昨今の日本経済は申すまでもなく、一部の大手企業を除き、景況感の悪化、景気動向も8期連続悪化といった現状です。地方での生活は決して豊かではございません。このような状況の中で、工事にご理解をいただいたことに重ねて感謝しております。

先祖代々があり、菩提寺（智恩寺）があり、我が身があり、生かされていることに感謝し、お互いに先祖の供養で我が身の心の安らぎを感じながら・・・。そして人生の終着駅が近づくなかで今後の歩みを見つめ、微力ですが更に庫裡建設に力を注いで参りたく思います。今後ともご指導ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。お檀家の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

### 傾斜地工事完工！

昨年九月の定例檀家総会の決議を受け役員会で再度検討、施工業者と打ち合わせをいたしました。師走を四日後に控えた昨年の十一月二十七日に着工しました。庫裡建設の前に無事を祈願して法要が営まれ、十二月二十八日完成しました。

庫裡建設のご協力ありがとうございました



▲工事安全祈願祭



▲ついに工事完工

### 南房総白浜坐禅修行の旅

（後篇）

住職 奥村 孝 司

ホテルから車で約十分の道程。海岸の風景から一転、トンネルを越えると一面田畑の農村が現れた。そんな農村の小山の一角に智恩寺は堂宇を構えている。

境内に降りた彼らは不思議そうに辺りを見回している。先回りした師匠である父が出迎えてくれた。挨拶も束の間、まずは般若心経と一緒に読誦。師匠をモデルに坐禅の仕方、警策（きょうさく）く、叱咤激励する細長平たい棒の受け方、堂内への入出作法などを伝授。

さて、鐘三声とともに坐禅が始まった。前半後半の間に経行（きんひん）足の長さの半足分を左右交互に出しながらゆっくり歩く）を入れ約四十五分、坐禅の境地に一同入って行った。十分が過ぎた。皆辛そうである。

ここ智恩寺の歴史を坐しながら聞いていただくことになる。開創四〇〇年を過ぎたお寺である。堂宇の裏手に墓地。さらに豊富な孟宗竹の竹林が茂る山を背にしている。二十分が経った。一度、坐を解いて経行を五分間。引き続き後半の坐禅が始まった。

いつもの坐禅会では気付かなかった二つのことを教えてくれた。それは、外から聞こえる音である。函館では聞きえないというか聞こえない音である。孟宗竹を揺する風の音、耕耘機（くわんきん）の音、鳥のさえずり、耳をそれ以外の音が通過する。次に、彼らの坐相（ざさう）さそう、坐禅をしている姿、その形である。後半も十分程経過したあたりでみな動き出した。こころの動揺と日頃の生活が姿した。一番辛そうだったのは設計士の彼で、厳しさが表れていたように思った。変わった坐相を展開したのは会長である。なぜか段々まるまっていくのである。仕事のことが心配だったのか、夜の宴のことが過ぎていたのか・・・。難なくこなしたのは、旅行会社社長と設備会社営業所主任である。完璧だったのはコンピューター会社部長である。全然隙を見せる余地がなかった。坐禅に親しんでいたかのような。最後に各人に警策で喝（かつ）を入れた。十分に精神修養ができ、こころのリフレッシュができたと感じた。翌日午前九時四十五分、ホテルの会長、父母の見送りを受け、午後五時三十五分函館空港に無事降り立った。（完）